

logitech®

ロジクールビデオコラボレ ーションデバイスのセキュ リティとプライバシー

RALLY BAR、RALLY BAR MINI、ROOMMATE



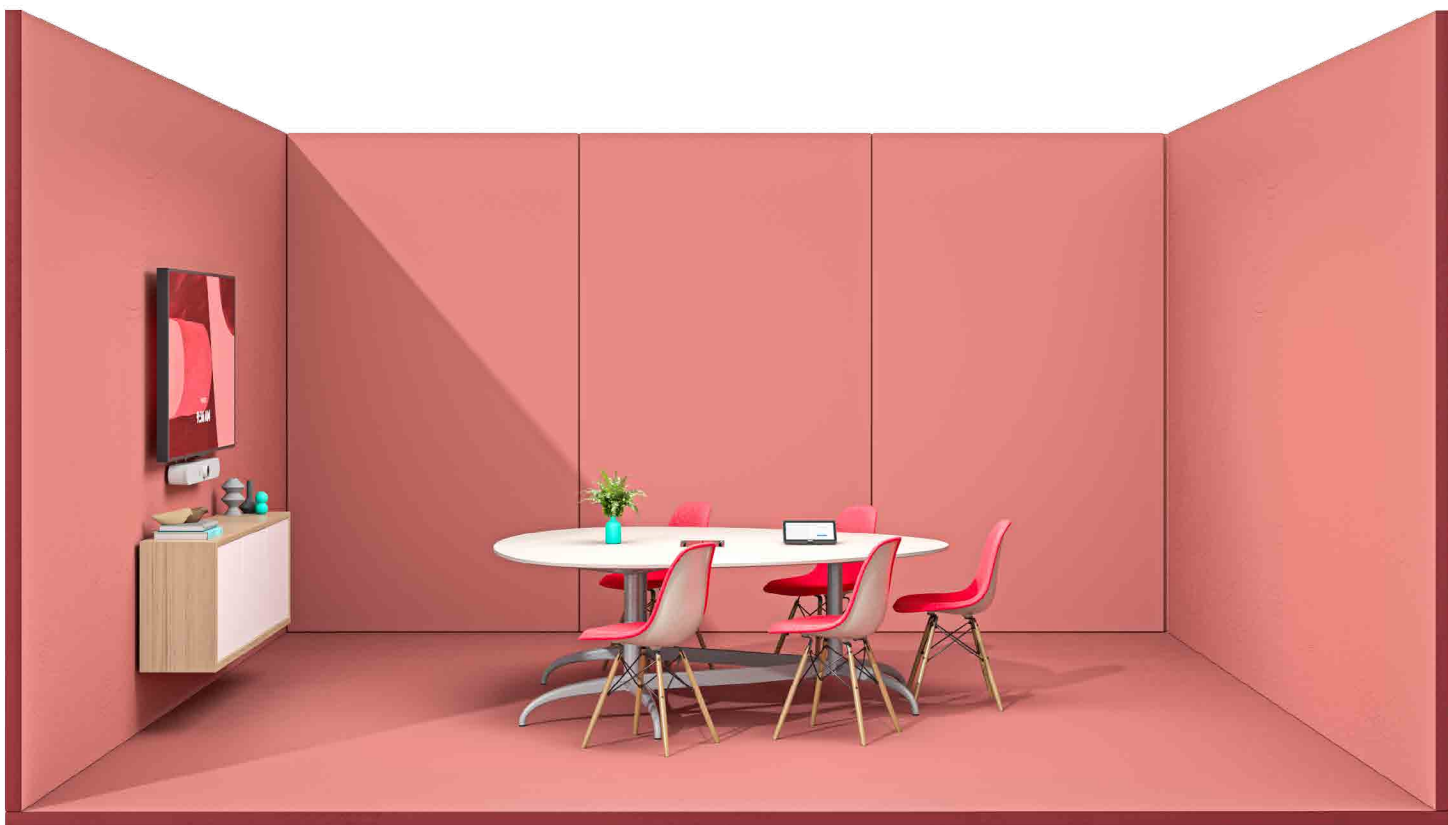
このホワイトペーパーでは、Logicool® Rally Bar、Logicool Rally Bar Mini、Logicool RoomMateのセキュリティとプライバシーに対するアプローチについて説明します。

ロジクールは、みなさまからの関心の高いデジタルエクスペリエンスとみなさまとをつなぐ製品を提供する世界的リーダーであり、すべてのアプリケーションでどこでも簡単に使用できる幅広いコラボレーションツールを提供しています。

Rally BarとRally Bar Miniはロジクールの主力製品で、小、中規模の会議室向けの一体型ビデオバーです。この製品の会議カメラは優れた光学、強力なオーディオ、AI主導のパフォーマンスを備え、ビデオコラボレーションの新基準を打ち立てました。どちらも、USBモードまたはアプライアンスモードに対応しているため、大規模に導入でき、非常に柔軟で簡単に使用できます。

Rally Bar、Rally Bar Mini、RoomMateでは、製品設計の重要な側面としてセキュリティとプライバシーが挙げられます。これら製品については、すべてAndroid 10をベースとしており、クラス最高のセキュリティ、プライバシー、パフォーマンスが提供されています。Android 10はこれらの分野について、以前のバージョンのAndroidオペレーティングシステムと比較して大幅な改善が実施されています。

上記のロジクール製品は、製品の設計、開発、および商品化における業界のベストプラクティスに従った安全な開発ライフサイクルの元で開発されています。設計の初期段階からセキュリティを考慮してビルドしているため、セキュリティに対する期待に応えることができ、さらには期待を上回るセキュリティを提供します。例えば、組織全体から集めたセキュリティ専門家で構成されるセキュリティレビュー委員会による製品設計レビューを実施しています。当社では開発およびテスト中に、システムとソフトウェアのセキュリティを厳密に検証します。また、セキュリティの脅威を分類する業界標準であるSTRIDEに準拠しています。



セキュア開発ライフサイクル (SDLC)

Rally Bar、Rally Bar Mini、RoomMateは、セキュア開発ライフサイクルのベストプラクティスに準拠して開発されました。

SDLCでは、システム開発の各段階（設計、実装、リリース）にセキュリティレビューゲートを設けています。設計フェーズでは、すべての設計ドキュメントが社内外のセキュリティ専門家によってレビューされます。

実装フェーズでは、開発チームが作成したコードに対し、自動レビューと人間によるレビューの両方が行われます。すべてのソースコードに対して静的分析が行われ、結果に問題があった場合にはフラグ付けされ、開発チームとセキュリティスペシャリストによるレビューが行われます。

Rally Bar、Rally Bar Mini、RoomMateのすべてのソフトウェア開発は、以下のような業界標準に準拠しています。

- ： [Android Secure Coding Standard](#)
- ： [SEI CERT Oracle Coding Standard for Java](#)
- ： [SEI CERT C Coding Standard](#)
- ： [SEI CERT C++ Coding Standard](#)

ソフトウェアのリリース前には、機能とセキュリティの両方について徹底したテストシリーズが行われます。システムのアップデートや新規リリースもSDLCに従っており、現場で使うソフトウェアは、メジャーリリースまでの間に発見された問題に対処するセキュリティパッチによって保守、更新されます。



設計によるセキュリティとプライバシー

Rally Bar、Rally Bar Mini、RoomMateには、製品開発の開始から実装、リリース、および更新まで、セキュリティとプライバシーが設計に組み込まれています。

以下は、これらのデバイスのセキュリティを強化するために実行する手順リストの例です。

- ： **まずは強固な基盤:**プラットフォームは基本的にAndroid 10をベースとしているため、セキュリティと安定性が強化されています。
- ： **ユニバーサルデフォルトパスワードは使用しない:** Rally Bar、Rally Bar Mini、RoomMateは、業界のベストプラクティスとカリフォルニア州法に従い、ユニバーサルデフォルトパスワードを使用しません。デバイスにもデフォルトパスワードは設定していません。
- ： **ソフトウェアを常に最新の状態に:** Rally Bar、Rally Bar Mini、RoomMateのソフトウェアを常に最新のリリースで最新の状態に保つため、ソフトウェアの「無線」更新が行われます。
- ： **ソフトウェアの整合性を維持:** ソフトウェアイメージはすべて暗号化され、稼働中にデジタル署名されます。Rally Bar、Rally Bar Mini、RoomMateは、ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする前に、各ソフトウェアイメージの署名を検証することで、その整合性と信頼性を維持します。
- ： **セキュアな通信:** Rally Bar/Rally Bar Mini/RoomMateとクラウドとの間の通信はすべて、トランスポートレベルのセキュリティ (TLS) を使用して行われます。プラットフォームで実行するアプリケーションでは、同様の形式を使用するか、別の形式の通信を追加で使用する場合があります。セキュリティプロトコルについては、アプリケーションのサービスプロバイダーに確認することをお勧めします。
- ： **個人データの保護:** Rally Bar、Rally Bar Mini、RoomMateは、デバイス内に個人を特定できる情報 (PII) を含んだり、保存したりしませんが、ビデオサービスプロバイダーは、アプリ内に個人を特定できる情報を保存する場合があります。PIIポリシーについては、サービスプロバイダーに確認することをお勧めします。

デバイスアプリケーションのセキュリティ

Rally Bar、Rally Bar Mini、RoomMateには、日常業務で使用するアプリケーションがいくつか含まれています。デバイスを保護するために、ロジクールではデバイスに存在するアプリケーションを注意深く管理しなければなりません。

アプリケーションのホワイトリストに登録するプロセスを通じて、ロジクールでは使用を許可するアプリケーションを正確に制御できます。出荷前にソフトウェアを保護する一環として、当社では必須ではないアプリ、サービス、デバイスドライバーを削除または無効にすることで、攻撃対象領域を減らしています。Rally BarとRally Bar Miniは、Androidシステムのコンポーネントである組み込みSELinuxポリシーを利用しています。

ハードウェアのセキュリティ

Rally Bar、Rally Bar Mini、RoomMateのハードウェアコンポーネントには、デバイスのセキュリティを強化する機能が複数備わっています。デバイスに必要なシークレットやキーを保護するために、信頼性の高いエンクレープを使用しています。ハードウェアはセキュアブートを利用して、本番環境で署名されたブートソフトウェアとシステムファームウェアの有効性を検証します。更新以前のソフトウェアは安全性が低い可能性があります。ハードウェアベースのアンチロールバック機能が有効になっているため、更新されたシステムが以前のソフトウェアセットに戻されることはありません。

ハードウェアポートの不正開封防止カバーにより、物理的なセキュリティがさらに強化されています。

セキュリティ検証

社内品質保証プロセスでは、ソフトウェアコンポーネントのセキュリティテストスイートを利用して、ソフトウェアリリースのたびにセキュリティの脆弱性をチェックしています。テストスイートのゲートをクリアするまで、ソフトウェアをリリースすることはありません。

ファイアウォールのルール - ポートのフィルタリング/ブロック

Rally Bar、Rally Bar Mini、RoomMateは、ファイアウォールに関する独自のルールを実装してポートのフィルタリングとブロックを実行し、ネットワークにさらされる攻撃対象領域を減らしています。

レコーディングとプライバシーのための外部デバイスインジケータ

Rally Bar、Rally Bar Mini、RoomMateに搭載されるすべてのレコーディングデバイス（マイクやカメラなど）には分かりやすいインジケータが付属しています。Rally BarとRally Bar Miniの会議カメラ用にはレンズキャップが付属しています。

アプリケーションのサンドボックス化

組み込みアプリケーションをサンドボックスで使用することで、プラットフォーム上でのアプリケーションの相互干渉を防ぎます。各アプリケーションとそのデータには、作業用にそれぞれ専用のスペースが与えられ、アプリケーションごとのサンドボックスに保持されているデータの読み取りや書き込みの機能など、他のアプリケーションの実行との通信や干渉が制限されています。

データの保護 - ストレージの暗号化

Rally Bar、Rally Bar Mini、RoomMateにおけるすべてのデータ保存に、ハードウェアレベルでのストレージの暗号化が使用されます。

バックエンドのデータセキュリティ

Rally Bar/Rally Bar Mini/RoomMateとそれらをサポートするロジクールのバックエンドシステムとの間の通信は、無線更新を含め、転送中のデータの暗号化およびデバイスが通信するシステムの認証を提供するトランスポート層セキュリティ（TLS）を使用して、暗号化されたチャネルを介して実行されます。

Amazonのモノのインターネット（IoT）フレームワークとインフラストラクチャを活用して、デバイスとバックエンド間の安全な通信を可能にし、クラウドに保存中のデータを保護します。



当社は製品のセキュリティを積極的に監視し、既知の脆弱性に対処するためにタイムリーな更新を提供します。

インシデント対応

ロジクールでは、当社の製品で見つかった問題の報告をセキュリティ研究者だけでなくお客様からも受け付けて、現場で対処できるよう善処しています。当社は、政府主催の脆弱性報奨金制度に参加しています。この制度は、参加している研究者が当社製品について問題を発見した場合に報告してクレジットを受け取ることで、製品のセキュリティ向上を可能にする制度です。ロジクールは、報告されたセキュリティインシデントが有効かつ対処可能であることが判明した場合、その報告者に対して適切なクレジットを提供します。

さらに、インシデントを記録し、可能な限り迅速に対処します。当社では、こうしたインシデントの報告が慣行として受け入れられ、責任ある開示につながっていくことを期待しています。

その他のリソース

Rally Bar、Rally Bar Mini、RoomMateの詳細については、当社のウェブサイトlogitech.com/vcをご覧ください。

お問い合わせ

ロジクール製品に関するセキュリティ上の懸案事項については、[logitech.com / security](https://logitech.com/security)までお知らせください。

その他のご質問については、logitech.com/contactまでご連絡ください。



Logitech Inc.
7700 Gateway Blvd.
Newark, CA 94560
発行：2020年11月

このホワイトペーパーは、情報提供のみを目的としています。ロジクールでは、このホワイトペーパーに記載された情報に関して、明示または黙示または法定を問わず、いかなる保証も行いません。このホワイトペーパーは「現状有姿」で提供され、ロジクールによって随時更新される可能性があります。

© 2020 Logitech, Logicool. All rights reserved. 株式会社ロジクールは、Logitech Groupの日本地域担当の日本法人です。LogiおよびLogicoolロゴはLogitech Europe S.A.および/または米国およびその他の国における関連会社の登録商標です。その他の商標はすべて、それぞれの所有者の財産です。ロジクールは、この出版物に存在する可能性のある誤記に対して一切責任を負うことはありません。ここに記載されている情報は予告なく変更される場合があります。